

「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」視察記（詳細版）

10月19日－22日

文科省（文化庁・スポーツ庁）の2020年東京大会の文化プログラムのキックオフイベント。初日は京都、2日目から3日間は東京で多くのイベントが開催された（巻末のスケジュール表参照）。シンガポールからの客人のKim Lim Gek（金林玉）さんと参加したので簡単に報告する。このフォーラムはIOCバッチ会長や世界のスポーツ担当大臣の参加を得て、経済面の官民ワークショップまで幅広く開催された。しかしながら、一般に公開されたイベントは多くない。それでAll Togetherの文化プログラムのキックオフとは？



19日：早朝に新幹線で京都入り。京都会場の新設のローム・シアターは厳しいセキュリティチェック。オープニングと全体会に応募して参加できた。ポスターには「All Together! 共に創ろう、新たな成長」。本当か？会場入り口では、京都のミス着物のお嬢さん達が笑顔で記念撮影に応じてくれた。客人のKimさんは大喜び。

オープニングセレモニーは藤原道山の尺八に弦楽四重奏のコラボ、バックにはCGの映像作品と芸術満載のスタートである。会場は満員。政財界の挨拶はさておき、基調講演は3者。オリンピック文化遺産財団理事長のブランシス・ガーベットの話はIOCの文化プログラムとオリンピックミュージアム。京都が誇るノーベル賞受賞者の山中伸弥教授はユーモアを含めながら自分の研究について、また中山氏の父の貢献について語った。

中でも、裏千家の元家元の宗玄室氏の「日本人の心」というスピーチが興味深かった。文化プログラムで「おもてなし」を前面に出す政府や組織委員会に対して、「おもてなし」（注：おもてなしとはいわない）を売りものにするべきでない、と言うのである。日本人の心性には既にもてなしの心や心構えが入っているので、わざわざ「おもてなし」などと取り出して言うに当たらず。温かい心をもって各国の人々を迎え、付き合っていく。さりげない態度で接すること、それが人間愛であると静かに語っていた。そして、千利休の教えである茶の心の「四規：和敬清寂」について紹介したのが印象的であった。平和・尊敬・清心・不動、このような態度で日本文化の良さが自ら発信できるのであろう。客人のKimさんもこの宗室氏の話だけはメモをとっていたのが印象深い。

オープニングの最後に宮田文化庁長官による「2020年を見据えた文化による国づくりを目指して」（通称：京都宣言）が読み上げられた。オリンピック・パラリンピックが文化の祭典でもありとし、クールジャパンというソフトパワーを生かして、多様な文化の振興、産業振興や海外展開、地方創生等への可能性を秘めた文化による国づくりをオールジャパンで推進すべきである、と宣言した。要するに、文化芸術立国およびそれによる観光立国を目指すというのである。国の文化行政としての文化の投資が国際協力、社会発展、経済成長にも繋がるようにするという。まったくもって内向きの経済と観光志向の発想である。英語版の宣言文がないのが残念である。

午後は一般公募のシンポジウム「東京2020公認文化オリンピックアワード：文化芸術資源で未来をつくる一輝き続ける日本へ」に参加。オープニングは車椅子ダンスパフォーマンス。基調講演は宮田文化庁長官とオリンピック文化遺産財団のガーベット氏。宮田長官は芸大大学長時代からの「上野の文化の杜」構想と企画展示のオール・ブリュットに言及。プレゼンテーションの4人の話にはあまり関心と呼ぶようなメッセージがない。参

加者が驚いたのはゲストパフォーマンスの「ももいろクローバーZ」。多くの追っかけが前席に陣取っての応援パフォーマンスである。

幕間には、企画展示のアール・ブリュットの展示作品を見ることができた。この展示会は東京 2020 参画プログラムの一環として公認プログラムのロゴマークも使っていた。「アール・ブリュットー多様な表現が繋ぐ新たな社会へ」というのが展示会のタイトル。「アール・ブリュット」とは「手を加えない生の芸術」という意味である。障がいを持つ人々の生の感性がそのまま表現されている素晴らしい作品群が展示してあった。作品の写真撮影が禁止なのが残念。宮田文化庁長官や元滋賀県知事の嘉田由紀子氏等も参加していた。澤田真一氏などの障がい者アートと滋賀県のつき合いを初めて知った次第である。ここで、リーズ大学の知人である文化プログラムの研究者 ビートリッツ・ガルシア女史がこのシンポジウムに参加していて、再会にびっくりである。

20日：SCWF は一般公募のイベントがない。残念である。オランダ大使館のスポーツ価値のラウンドテーブルに招かれたのでそちらに参加。日蘭のスポーツ研究者が3カ所でラウンドテーブルで意見交換を行った。これが21日夜のレセプションに繋がった。オランダのスポーツ大臣の来日に合わせた企画イベントであった。

21日：相鉄線の人身事故の影響で1時間電車に閉じ込められて乃木坂の国立新美術館での障がい者アートのシンポジウムに出遅れる。このシンポジウムは東京で唯一の一般の人が参加できるイベントである。しかしながら、会場は満席ではない。知られていないのであろう。宮田亮平（文化庁長官）と青木保（国立新美術館長）の挨拶は聞けず。ジェニー・シーレイ（グレイアイ・シアター・カンパニー 芸術監督）の講演の途中から入場する。会場にはガルシア女史やニッセイの吉本氏の姿も見えた。

シーレイ女史は、2012年ロンドン大会の文化プログラムである Unlimited でアーティストック・アドバイザーを務めた人である。障がい者の文化芸術参加を医療モデルから社会モデルに変換し、様々な工夫でアクセシビリティを確保することが重要であると主張していた。それがインクルージョンの前提であるし、身体能力で人を評価するのはおかしいと語っていた。リオの開会式にも言及し、事前に準備しさえすれば誰でも参加できると。

東ちづる氏（女優/一般社団法人 Get in touch 理事長）は「まぜこぜの社会」をつくることの大切さを、日比野克彦氏（アーティスト/東京藝術大学教授）はリオでの TURN の活動について、森田かずよ氏（ダンサー NPO 法人ピースポット・ワンフォー理事長）は自分のダンスと演劇パフォーマンスで障害のある身体を晒すことで一体何を伝えるのか模索していること、山中俊治氏（デザインエンジニア/東京大学大学院情報学環教授）は Designing Body と題して美しい義足を作ることで、失われた部位の補完を超えた身体を拡張する未来を志向すると述べた。森田氏の「種を蒔いても勝手に花は咲かない。日常圏に表現する機会を増やすこと」「メディアも障害を感動や哀れみではなく、福祉ではなく芸術文化として報道すること」の重要性を指摘していた。山中氏は障害の一つ一つを直視して論ずることの大切さ、「障がい者だからと一括りにするのではなく、social として論ずるのではなく」、この視線の大切さを強調していた。進行は野澤和弘氏（毎日新聞論説委員）であった。

これはなかなか興味深いシンポジウムであった。障がい者アートの可能性を再認識させられた。会場の国立新美術館には障がい者アートの一環として『ここから』と題して、障がい者アート、義足のデザイン、車椅子デザインや TURN in BRAZIL 帰国報告会の展示など、興味深い展示も行われていた。無料の展示会で会ったが鑑賞者は多くはなかったのが残念である。夜はホテルニューオータニでオランダ大使館主催のレセプションに参加。

22日：最終日はスポーツ・文化・ワールド・フォーラムをパスして Kimさんと神奈川のバラスポーツフェスタに参加した。田口亜紀さんの講演が目当てであった。2人でボッチャとゴールボールも体験。Kimさんはパラリンピックのゴールボールの銀メダルを触れるのが信じられない様子。感激していた。シンガポールはリオで初めて水泳で金メダルを獲得した。この後どのような展示にしていくか気になるようであった。

2016年10月18日(火)

14:00 - 18:00 **文化体験プログラム**
・京文化体験、伝統芸能体験

2016年10月19日(水)

10:00 - 10:30 **京都オープニング** 一般公募
・尺八と京都市交響楽団メンバーによる弦楽四重奏、映像によるコラボレーション
・開会宣言、主催者挨拶等

10:30 - 11:30 **文化会議 全体会** 一般公募
・国内外の著名人による基調講演
・文化による国づくりに向けた取組を行っていくことを国内外に宣言

12:00 - 14:00 **公式ランチ**

13:00 - 14:00 **文化会議 分科会**
創造都市ネットワーク日本（CCNJ）自治体サミット
・加盟自治体首長による文化プログラムに向けた取り組みの紹介
・自治体サミット宣言の発表

14:30 - 17:00 **文化芸術資源で未来をつくる～輝き続ける日本へ～** 一般公募
・文化プログラムの推進に向けたシンポジウム

15:00 - 17:00 **創造のためのアーカイヴ ～文化芸術資源の活用による新たな表現～** 一般公募
・国内外で活躍するアーティストや研究者等によるアーカイヴ（映画、映像資料の収集・保存・公開）に関する講演・パネルディスカッション

15:00 - 17:00 **Culture induced Innovation** 一般公募
（文化が革新を創造する）～伝統と革新～
・世界で活躍するクリエイターによるパネルディスカッション

13:00 - 18:00 **日本文化と雅**
・専門家解説付き寛永文化と後水尾天皇に焦点を当てた特別プログラム

10:00 - 11:30 **クリスタルアワード受賞者によるHouse of Hosoo/Showroomの訪問**
・クリスタルアワード受賞者が京都をベースに活躍する企業の強みとなる鍵を体感

13:00 - 17:30 **クリスタルアワード受賞者との特別ワークショップ**
・宮本武蔵が修行した妙心寺退蔵院の本堂においてクリスタルアワード受賞者の基調講演と日本と世界の交流や新しいビジネスの在り方に関するクロストーク

18:15 - 19:00 **文化イベント**
・川井郁子ヴァイオリンコンサート～The Oriental Opera～
・世界遺産・二条城 二の丸御殿（国宝）における文化イベント
～第三代将軍徳川家光による後水尾天皇への饗応を再現～

19:30 - 21:00 **公式夕食会**

東京プログラム ※10月14日現在の公開情報（下線は今回情報を更新するプログラム）

2016年10月20日（木）

- 13:00- 14:45 **スポーツセッション**
ラグビーの魅力・ラグビーワールドカップの力
 ・ラグビーの魅力アジア等の国々へ伝承
 ・ラグビーワールドカップ開催がもたらす国内外の社会的・経済的な発展の可能性
- 15:00- 17:00 **東京プレナリー**
 ・基調講演
 ・官民パネル
- 17:00- 17:30 **文化イベント**
 ・The Land of the Rising Sun
- 17:30- 20:00 **公式夕食会**

2016年10月21日（金）

- 10:00 - 12:00 **スポーツセッション**
オリンピック・パラリンピックがもたらすレガシー
 ・東京大会において、残すべきレガシー
- 13:00 - 17:00 **スポーツ大臣会合**
Sport for Tomorrow
 ・開発と平和のためのスポーツ
 ・万人のスポーツへのアクセス
 ・スポーツ・インテグリティの保護
- 09:00- 17:00 **官民ワークショップ**
 ・世界経済フォーラムと連携し、世界の未来を議論
- 10:00- 22:00 **文化会議 分科会**
ここから-アート・デザイン・障害を考える3日間（展示） ※23日（日）まで
 ・障害のある方による優れた芸術作品や、障害のある方のための優れた取組等を紹介
- 13:00- 16:00 **文化芸術活動を通じた多様性を尊重する社会の実現に向けて**
 ・障害のある方々による芸術活動や障害のある方々に関わる活動をテーマとしたシンポジウム
- 18:30-22:00 **ユースプログラム**
次世代共創シンポジウム
 ・2020年、そしてその先の未来に向かう次世代リーダー発のアイデアを国内外に提案
- 19:00-20:00 **文化イベント**
ディヴァイン・ダンス 三番叟 ～神秘域（かみひそみいき）～

2016年10月22日（土）

- 9:00-12:00 **日本文化体験プログラム**
- 10:00-13:00 **文化会議 分科会**
バリアフリー映画上映会
 ・障害の有無にかかわらずあらゆる人々が共に楽しむことができる映画上映会